

2026年度 SSI（総探）

【第12回】 仮説を検証しよう

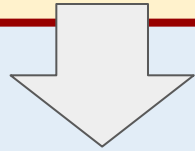


2026年9月1日（火）



仮説の検証に向けて

全チーム 今後の**仮説検証の方針**を定めて計画・実施へ



(主に下記3つの方針)

◆ 文献研究のみのチーム

→ 追加の文献調査計画作成 → 文献調査継続

◆ インタビュー調査を実施予定のチーム

→ インタビューの企画立案 対象・内容・実施時期

◆ アンケート調査を実施予定のチーム

→ アンケート作成(アンケート項目の作成→後述)



プレ探究終了までの流れ

	共通	インタビュー調査	アンケート調査
7/14	研究手法選択	インタビューの計画	アンケート作成
夏休み		インタビューの実施	↓
8/26	文献調査報告提出	↓	回答リンク 提出締切
8/27 -8/31		↓	アンケート相互回答
9/1	文献調査まとめ	インタビューまとめ	アンケート集計・分析
9/15	研究報告書まとめ		
9/28	研究報告書提出締切		

インタビュー実施チーム

インタビューの対象：原則は学内の生徒・教員

7月14日(火) 第11回	インタビューの計画と依頼(アポ)
夏休み～9月7日(月)	インタビューの実施
9月 1日(火) 第12回 9月 8日(火) 第13回	インタビュー記録の整理→研究結果まとめ プレ探究計画書兼報告書の(5)(6)作成

「課題研究メソッド」p83-85や下記のようなサイトを参考に、
インタビューのマナーや必要な事前準備を必ず確認しましょう！

- [NHK for School](#)
- [\(株\)クリエイティブバンク 「成功するインタビューのやり方」](#)
- [Appmart 「初めてでも大丈夫！インタビューの方法とコツ。必要な準備や段取りも紹介」](#)

アンケート実施チーム

調査対象：原則は**高校1年生全員**

※ 教員の協力が必要な場合は、SS I 担当教員(28名)が最大範囲

回答時間：**1分以内**に回答できる量が原則

7月14日(火) 第11回	アンケート作成
8月26日(水) 20:00	アンケートの回答リンク 提出締切 (所定のスプレッドシートにフォームのリンクをはる)
8月27日(木)～	アンケートの相互回答
9月1日(火) 第12回	アンケート結果集約→分析→研究結果まとめ プレ探究計画書兼報告書の(5)(6)作成

【Step5】文献調査報告の共有＋他の調査

Step5 (夏休み)

文献調査を個人で行う。

Step5 (本日)

文献調査を共有する。
インタビューやアンケートの
結果をまとめる。

Step6-7 (本日～次回)

研究結果を考察し結論を得る。

研究報告書 (5)(6)部分

(5) 研究結果

(研究手法を実施した結果得られた定量的データ、定性的データをまとめます)

まず全員分を
Copy&Paste

(6) 考察・結論

(研究結果のデータに、考察・分析をくわえ、リサーチします。)

文献調査報告書

高校46期 SS1 (総合探究)			
チーム番号	研究者	1 年	組 氏名 :
自分のチームが現在立てているリサーチクエストンについての文献調査を進めましょう。 夏休みはまず個人で調査を行います。他の生徒とは共有しないでください。 夏休み明けにチームでそれぞれの文献調査報告書を共有し、研究計画書兼報告書の「報告書」部分のまとめを行っていきます。			
(1) 研究テーマ			
(2) 文献調査のための文献リスト 文献情報の書き方については、『課題研究メソッド2nd Ed』176-177ページ参照してください。テーマについて詳しくなるために必要そうな論文または単行本を1冊、しっかり読んでみましょう。			
(3) 文献調査(調べ学習)のまとめ (2)に挙げた文献の調査から分かったことを、800字～1600字でまとめてください。 研究テーマに関する基礎知識や先行研究の内容の部分については他の人が読んで分かるようにまとめましょう。			

【Step6】研究結果 → 考察・結論

自分たちのリサーチクエスチョンに対し、研究を通して得られた結論をまとめる。

(5) 研究結果

文献調査・インタビュー・アンケートの結果得られた事実の要約・整理

(6) 考察・結論

(5)の事実をもとに、それを解釈し、何が分かった・分からなかったのかを述べる。

(5) 研究結果

(研究方法を実施した結果得られた定量的データ、定性的データをまとめます)

Blank box for research results.

(6) 考察・結論

(研究結果のデータに、考察・分析をくわえ、リサーチクエスチョンに照らして、分かったことや分からなかったことをまとめます。)

Blank box for reflection and conclusion.

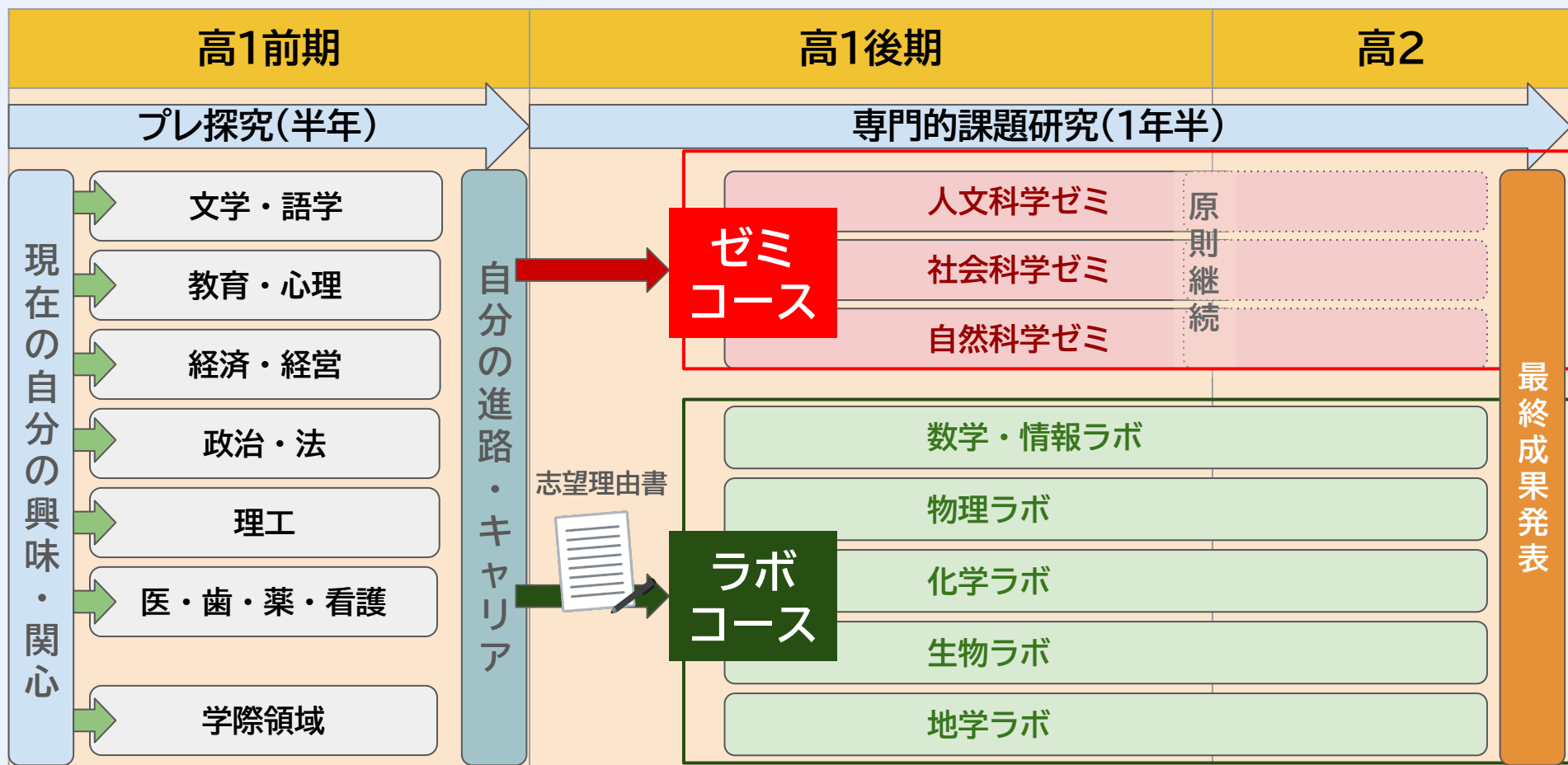
研究報告書 (5)(6)部分

※ 研究報告書の書き方

(今回の研究計画による結論をふまえて、次に明らかにしたい新たなリサーチクエスチョンや、次に行いたい研究内容を書きます。)

Blank box for next steps.

プレ探究から専門的課題研究へ



2026年度 専門的課題研究テーマ決定まで

7/14	SS I 授業⑪ 専門的課題研究 概要説明 SS I 担当教員一覧を配信 ★研究分野事前調査フォーム(第1次)配信 → 8/26 締切	
9/1 9/8	SS I 授業⑫⑬ 授業時間内の研究室訪問も可 ※理科4分野希望生徒 → 研究室訪問 (9/1放課後～9/15) 必須	
9/15	SS I 授業⑭ 前期SS I 最終授業 授業時間内の研究室訪問も可 ★研究分野本登録フォーム(第2次)配信 → 9/18 締切	
9/19	理科分野希望者対象「テーマ選定のための合同相談会」 理科4分野希望の生徒 → 1教室(場所未定)に集まり、仮チーム編成	
	★理科分野最終登録フォーム(第3次)配信 → 10/1 締切 理科4分野希望の生徒 → 志望理由書(ラボコース希望者)	
10/13	後期初回 チーム決定・研究テーマ設定	

研究分野希望調査フォーム（第1次）

研究分野を夏休み中にじっくりと考え、**仮登録**を行う。

特に、**ラボコース**希望者は自分の研究したいと考えている内容と研究を行う教室(研究指導教員)とのマッチングを意識する。

- チームを組まず、**個人研究も可**
- チームでの研究を推奨。
1チーム 2～4名(4名以下厳守)
- 外部コンテストへの積極参加

系統	学問分野
人文科学	歴史学、考古学、地理学、哲学、心理学、文化学、文学、語学、言語学
社会科学	法学、政治学、商学、経営学、社会学、経済学、観光学 マスコミ学・メディア学、コミュニケーション学、社会科学系学際
理学	数学、物理学、化学、生物学、生命科学、地学、宇宙科学、情報科学、 広域科学、理学系学際
工学	機械工学、電気通信工学、応用物理学、応用科学、応用生物学、材料工学、 経営工学、情報工学、画像・音響工学、生産・システム工学、 工芸学・工業デザイン、商船学、都市工学、土木建築工学、工学系学際
農学	農学、農芸化学、農業工学、農業経済学、獣医学・畜産学、水産学、森林科学
医療・保健	医学、歯学、薬学、栄養学、保健・衛生・医療技術学、看護学
家政	家政学、食物学、住居学、児童学、被服学
教育	教育学、体育学、総合科学、教員養成
芸術	美術、工芸・デザイン、音楽、芸術系学際
総合学際	教養学、国際関係学、人間科学

研究室訪問

理科4分野の研究希望者

9月1日～15日の期間に、
自分の研究したい分野の先生を
訪ねて、相談に行く。

❖ 9/1・8・15の授業時間内の
研究室訪問も可

予備調査の回答結果を
「希望研究テーマシート」として
プリントアウトし、配布
→これを持参して訪問を行う。

2025 年度 SS I 専門的課題研究 希望研究テーマシート

組番	氏名	チーム
研究したい 内容	エネルギーに関わる研究をしたい。 特に、ニッケルカドミウム電池やニッケル水素電池などの二次電池で起こるメモリー効果の原理について。	
希望配属先	02. 物理ラボ, 03. 化学ラボ	
【志望理由】 以前科学雑誌 Newton を読んだ際に、ニッケルコバルト電池やニッケル水素電池にはメモリー効果という電池の電圧が下がる現象が起こるということ知った。また、その発生する原因は明確でないということも書いてあった。 メモリー効果について調べると、この原理を解明することは電池の長寿命化や、発熱等による事故・故障のリスク低減につながるということがわかった。また、劣化による電池交換の回数が減ることで廃棄物の削減といった環境保全にもつながると思いました。 以上のことから私はメモリー効果について研究したいと思いました。		

2025年度 SS I 研究室訪問メモ用紙

訪問日時	9 月 日 ()	訪問先	先生
メモ			

次回の予定

次回 → 9月8日(火) 6限

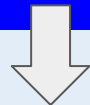
研究計画書の完成へ

研究報告書 (7)部分

(7) 今後の展望

(今回の研究計画による結論をふまえて、次に明らかにしたい新たなリサーチエスチョンや、次に行いたい研究内容を書きます)

前期プレ探究のGoal



高1後期 ~ 専門的課題研究へ

STEP1

研究テーマを決める

STEP2

リサーチエスチョンを導く

STEP3

仮説を立てる

STEP4

適切な研究方法を選ぶ

中間目標

研究計画書を作成する

STEP5

調査・実験を実施する

STEP6

結果をまとめて考察し、結論を導く

STEP7

研究内容をまとめ、発表する